

1 学校として目指す授業

『学ぶ意欲、達成感と確かな学力向上』を目指した授業

2 児童の現状

(1) 「全国学力・学習状況調査」の分析 (小学校6年生)

学力・学習状況調査の分析	生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査の分析
・国語、「知識及び技能」言葉の特徴や使い方に関する事項、「思考力、判断力、表現力等」書くことについては、全国、東京都平均より上回っているものの、話すこと・聞くことは平均より下回っており、対話を重視した学習展開の必要性を示している。 ・算数、「思考、判断、表現」は、全国、東京都平均より上回っているものの、「知識・技能」は、平均より下回っており、「数と計算」「図形」領域で、基礎的・基本的な知識・技能の習熟に取り組んでいくことが課題である。	・「朝食を毎日食べていますか」「読書は好きですか」の質問に対して、全国・東京都平均より肯定的回答が多い一方、「学習した内容について、分かった点や、よく分らなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」「授業で学んだことを、ほかの学習に生かしていますか」の質問に対して、平均より下回った。授業で学んだことが、他教科・他領域でも役立つこと、将来、社会に出たときに役立つことを実感できるように指導をしていく必要がある。

(2) 東京都「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の分析 (小学校4～6年生)

「分かることやできることが楽しから」85%、「しっかりと考えられるようになったから」89%が肯定的回答であった。一方、「確実にできるようになるまで繰り返し練習している」65%、「難しいと感じる問題でもあきらめずに取り組んでいる」71%が肯定的回答と、分らないとき、できるようにならないとき、どうすればよいのか見通しがもてず、あきらめてしまう傾向が数値にも表れている。「先生や友達に聞く」「学習方法を工夫する」「理由などを考えてみる」「調べてみる」等、課題の解決の仕方が十分に身に付いていないこと、根気強く反復して取り組むことが苦手な傾向にあることも分かった。各教科、領域で、最後まで粘り強く学習に取り組んでいく指導をしていく必要がある。

(3) 清瀬市「学力調査」の分析

全体を通して、国語では、物語や説明文の内容を読み取ることはできていた。また、言語文化についても理解している傾向である。しかし、「書くこと」においては平均を下回っており、特に漢字の書きに至っては低い傾向にある。算数では、数の変わり方や簡単な場合についての割合、分数などの理解はできていた。しかし、数の取り扱い(億と兆・概数の表し方)が平均を下回っていること、また、いろいろな形の作図や計算のきまり(わり算)(四則の混じった計算)が理解できていない傾向がある。

(3) その他の資料を活用した分析

活用した資料名及び分析結果
・東京都統一体力テストでは、各種目において、全体的に東京都平均より数値が低い傾向にある。 ・運動する喜びを味わったり、目標を達成したりする機会が少ないので、学習意欲を高める工夫が必要である。

3 児童の学力・学習状況等の課題

・「意味や理由を考えながら学習に取り組む」「途中の計算を書きながら筋道を立てて考える」等、課題解決に至る活動を苦手にしている児童が多く、すぐに答えだけを求めたがる傾向にある。また、答えを確かめたり、誤答の理由を考えたりすることが十分できていない。
 ・漢字の書き取りは、都や市の平均を下回っている。反復練習を苦手とする児童の傾向や家庭学習の時間が平均を下回っていることと関連しているといえる。
 ・都の学力調査の結果からも対話を重視し、多様な価値観、考え方の中で学びを深めていく活動が必要だといえる。

【授業改善推進プランの活用法】

- ① 「1 学校として目指す授業」を設定する。
※学校経営方針との関連を確認すること。
- ② 「1 学校として目指す授業」に関する各種調査の特徴的な課題を「2 児童の現状」にまとめる。
- ③ 「2 児童の現状」を基に、学校全体の課題を焦点化して、「3 児童の学力・学習状況等の課題」にまとめる。
- ④ 「3 児童の学力・学習状況等の課題」を基に、「4 学校全体の授業改善の視点」を設定する。
- ⑤ 「4 学校全体の授業改善の視点」を基に、「5 各教科における授業改善の方策」を設定する。 → 教育指導課へ提出する。
- ⑥ 12月末に実施状況を評価し、3学期以降の指導に生かす。
評価 ◎...実施した。 ○...一部実施した。 △...未実施

4 学校全体の授業改善の視点

基礎的・基本的な知識・技能の習得、課題を解決するための思考力・判断力・表現力を育むとともに、課題解決の過程を大切にし、児童の主体性を高める指導の工夫をする。

5 各教科における授業改善の方策

	国語	評価	社会	評価	算数	評価	理科	評価	生活	評価	音楽	評価	図画工作	評価	家庭	評価	体育	評価	外国語	評価	道徳	評価
低学年	・ペアで質問や感想を伝えたり、自分の考えを書いたりする活動を取り入れる。習っている漢字はノートに書く習慣を身に付けさせる。				・具体物の活用、自力解決の時間を通して等、数量や図形などについて、基礎的・基本的な概念や性質等を理解できるようにする。				身近な生活における興味関心を高めるために、見る、触るなどの具体的な活動や体験の場を設定する		音楽活動を通して、音楽の楽しさを知り、意欲が高まるような学習活動を展開する。		様々な材料、用具の体験を通して、自分の表したいことを進んで見付け楽しんで造形活動に取り組めるような題材設定をする。				友達と関わり合いを通して、児童が運動遊びに楽しく取り組めるように工夫する。					教科書の教材等から友達と話し合ったり考えたりして自己を振り返る活動を行う。
中学年	・ペアで質問や感想を伝えたり、自分の考えを書いたりする活動を取り入れる。国語辞典を活用し、習っている漢字はノートに書く習慣を身に付けさせる。		資料を活用する力を身に付けるために、地図の見方や資料の使い方を示し、分かったことを基に考えさせるようにする。		・自力解決の時間、ペアで話し合ったり発表したりする時間を通して、数量や図形などについて、基礎的・基本的な概念や性質等を理解できるようにする。		科学的な思考力を育成するために、観察実験において、予想したり、結果から分かったことを考えたりする活動をする。				音楽活動を通して音楽の見方考え方をを広げ、音楽の楽しさを感じられるような授業を展開する。		既習の技法のほかに新たな技法や材料を段階的に扱い、楽しみながら習得できるような題材設定をする。				ペアやチームで話し合う時間を設定し、友達と関わり合いを通して、児童が運動に楽しんで取り組めるように工夫する。					教科書の教材等から小グループで話し合う時間を意図的に設定し、多様な意見や価値観に触れられるようにして自己を振り返る。
高学年	・ペアやグループで質問や感想を伝えたり、自分の考えを書いたりする活動を取り入れる。国語辞典を活用し、習っている漢字はノートに書く習慣を身に付けさせる。		資料を活用する力を身に付けるために、地図の見方や資料の使い方について、友達と話し合ったり、発表したりして、考えさせるようにする。		・自力解決の時間、ペアで話し合ったり発表したりする時間を通して、数量や図形などについて、基礎的・基本的な概念や性質等を理解したり、思考の過程を提示できる活動を取り入れたりする。		科学的な思考力を育成するために、観察実験において、友達と話し合ったり、発表したりして、考察したことを深められるようにする。				協働的な学びの場面を多く設定し、音楽的な見方考え方がより広がっていくような授業を展開する。		既習の用具や技法を振り返らせ、表したいことに応じてそれらを選択、併用するなどして、総合的に活用し表現する題材を設定する。		学習したことを家庭で実践することで、学習内容の有用性を実感させる。		ペアやチームで話し合う時間を設定し、友達と関わり合いを通して、児童が運動に粘り強く取り組めるように工夫する。		外国語を用いてコミュニケーションをとる活動を意識的に設定する。			教科書の教材等から小グループで話し合う時間を意図的に設定し、多様な意見や価値観に触れ、考えを深められるようにして自己を振り返る。